No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

有限会社宮森石油店 コンクリート工場
東広島市豊栄町鍛冶屋464番地1
TEL：(082)432-2688
FAX：(082)432-2967
配合計画者名　市川　希

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月21日～6月20日・9月21日～11月30日　左記以外の期間は、備考欄に記述 (標準配合)
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項(任意)	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	－ kg/m³ －	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－ 日	流動化後のｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰの増大量	－ cm
	空気量	－％		

使用材料

セメント	生産者名	麻生セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq ％ －
混和材②		－		－		－	

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲％
細骨材	①	砕砂	安芸高田市向原町坂産	A	化学法	0～5	2.70	－	2.67	3.0±2.0
	②	砂	島根県仁多郡奥出雲町産	A	モルタルバー法	0～5	2.60	－	2.57	3.0以下
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	安芸高田市向原町産	A	化学法	5～20	6.66	－	2.74	0.5±0.5
	②	砕石	安芸高田市向原町産	A	化学法	20～40	7.96	－	2.75	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	ｼｰｶ ﾎﾟｿﾞﾘｽ15S	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq ％ 0.8
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	地下水・回収水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ ％		
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－	

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
264	－	－	156	433	432	－	526	525	－	－	2.21	－	－

水セメント比	59.0％	水結合材比	－％	細骨材率	46.4％

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比(質量混合)	細骨材①:② 50.0:50.0 粗骨材①:② 50.0:50.0

修正標準配合として、以下に示す期間、混和剤量を変更します。
・AE減水剤標準型は6月21日～9月20日（夏期）20％増、12月1日～3月20日（冬期）20％減
・高性能AE減水剤は6月21日～9月20日（夏期）15％増、12月1日～3月20日（冬期）15％減

配 合 計 算 書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	ＢＢ
指定事項	W/C≦60%				

(1)変動係数(v)　当工場の実績により　v ＝ 10　%

(2)配合強度(m)

$$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 30.0\ N/mm^2$$

よって　m ＝ 30.0　N/㎟

(3)水セメント比(W/C)　m ＝ -12.06 ＋ 24.86 × C/W

W/C ＝ 24.86 ÷ (30.0 ＋ 12.06) × 100 ＝ 59.0 % ≦【60%(上限値)】

∴W/C ＝ 59.0　%

(4)単位水量(W)　当工場の実績により　W ＝ 156　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　C ＝ W ÷ (W/C) × 100 ＝ 156 ÷ 59.0 × 100 ＝ 264　kg/m³

Cv＝ C ÷ 密度 ＝ 264 ÷ 3.04 ＝ 87　ℓ/m³

(6)空気量(A)　A ＝ 4.5 % × 1000 ＝ 45　ℓ/m³

(7)細骨材率(s/a)　当工場の実績により　s/a ＝ 46.4　%

(8)単位細骨材量(S)　Sv ＝ (1000 － (W＋Cv＋A)) × s/a ＝ 712 × 46.4 % ＝ 330　ℓ/m³

S ＝ Sv × 表乾密度 ＝ 330 × 2.62 ＝ 865　kg/m³

S1 ＝ S × 50.0 % ＝ 433　kg/m³

S2 ＝ S × 50.0 % ＝ 432　kg/m³

(9)単位粗骨材量(G)　Gv ＝ 1000 － (W＋Cv＋Sv＋A) ＝ 1000 － 618 ＝ 382　ℓ/m³

G ＝ Gv × 表乾密度 ＝ 382 × 2.75 ＝ 1051　kg/m³

G1 ＝ G × 50.0 % ＝ 526　kg/m³

G2 ＝ G × 50.0 % ＝ 525　kg/m³

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad ＝ 2.21　kg/m³

配 合 表　kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
264	－	－	156	433	432	－	526	525	－	－	2.21	－	－

水セメント比	59.0 %	細骨材率	46.4 %	骨材混合比(質量混合)	細骨材①:②　50.0:50.0 粗骨材①:②　50.0:50.0

備考